

銀杏坂タイム

◎ 仙台市子供相談支援センター

所長 大友 重明

仙台市青葉区錦町 1-3-9

TEL 022-214-8602 (相談支援係)

022-214-8848 (青少年指導係)

第 144 号 令和 4 年 3 月 7 日

ふれあい広場とサテライトの一年

□全体を通して

ふれあい広場サテライトが新規事業として本格開始して間もなく一年が経とうとしています。当センターとして、多くの保護者やお子さんに関わり、改めて不登校や引きこもりの現状について目の当たりにし、社会の在り方や課題について考えさせられました。

初めて見学に来た時の不安げな表情、ふれあい広場がマッチして元気に通所するようになってから見える笑顔。外に出られるようになり、自信が出てきた通所者の変容を見守ることができました。

次年度もふれあい広場通所者の「楽しみ」「自信」「関わり」を大切にしながら、居場所としての質や活動内容を向上させていきたいと思えます。また、家からなかなか出られないけれど外に出たいと思う子供たちもまだまだいるはずであり、タイムリーで内容も充実させたアウトリーチを通して関わっていきたいと思っています。

□錦町本体より

ふれあい広場では、人と関わることへの不安解消の一助になるように、月一回のペースで SST を実施しました。人と話すということはなかなか難しいものですが、テーマ、場所や人数の工夫によっては話すことができます。また、相手が真剣に聴いてくれたり、意見が採用されたりすることで自信を付けることができます。仮に話すことが難しくても、人の話に関心を持って「聴く」という気持ちとスキルを持ち合わせることも大切だと通所者と確認しています。まさに「話す」「聴く」は上手なコミュニケーションのための両輪だと言えます。

先日は「気軽に生きよう」のコーナーのミニエクササイズで「聴くスキル」の確認、SST（アンガーマネジメント）で「べき」の発想で相手を苦しめること、怒りは連鎖してしまうことを紹介しました。イベントの話合いでは、新年度 4 月の行事の内容を通所者と相談員が意見を交流させて決定しました。大切なことは、企画や運営に携わることで、通所意欲を高めるといふことと当事者意識を持って行事を楽しむ経験を積んでほしいということです。早速「バスの時刻表、調べますか？」といった反応があり、いい動き出しとなりました。



□サテライトより

早いもので、もう 3 月です。今年度ふれあい広場サテライトでは、子供たちの多くの「やりたい」を形にすることができました。

古墳探訪活動やゲーム大会など、いくつかのイベントは子供たちからの発信をもとに実施しました。また、スタッフからの提案がきっかけで実施に至ったイベントの多くも、内容の検討や事前準

備に子供たちも関わる工夫をしました。やはり自分たちで企画したイベントには積極的に参加できるようで、自発的に準備したり普段よりも楽しそうに参加したりする姿が見られました。子供たちとの対話を加えて、活動やイベントの準備を進めることの重要性を改めて実感しました。

イベントの企画や準備に子供たちが積極的に関わるようになった一方で、新型コロナウイルスの影響でイベントの実施に困難が伴うことが多々ありました。子供たちからイベントのアイデアが出てても実現できないことや、実施予定だったイベントが急きょ中止になってしまうことがありました。子供たちからも「できないことが多くて残念」という声が出ていました。今後も同様の状況が続くことが予想されるので、今後どのように子供たちに多様な経験の機会を提供していくかが課題だと感じています。

今年度は小学生から高校生年代に至るまで、幅広い年代の新規登録がありました。登録人数も年々増加し、不登校・引きこもり傾向がある子供の居場所の社会的なニーズの高さを実感しています。次年度も多くの子供たちとつながることが予想されるので、安心して過ごせる環境を整えるとともに、充実した時を過ごせるように活動やイベントを工夫していきたいと思います。

相談業務のこの一年

今年度もあと一月を切りましたが、多くの相談をいただきました。この1年の相談内容について子育て電話相談では、親御さんの「子育て不安」、お子さんの「気になる行動・くせ」や「家族との関係」、ヤングテレホンでは「性情報・興味」「育児・しつけ」「不登校」の各相談が上位を占めていました。本格的なコロナ下での生活が始まって丸2年が経過し、在宅時間が増え家族の親密度が深くなる一方で、家族間の問題が浮き彫りになり相談に至るケースも見られました。表面的にも潜在的にもコロナの影響による相談が今年も顕著に見られました。例えば、学校生活の相談でコロナの影響を感じるのは、「いじめ」の相談が減少したことです。いじめについては、他の相談機関が増えたことによる減少もあると思いますが、コロナで登校する日数や各行事や活動の中止、遊ぶことも含めて他者と関わる機会が減ったことで、トラブルも減少し、いじめが発生する場面も少なくなったのではないかと考えられます。逆に「不登校」の相談は増加傾向にあります。特に小学校低学年の不登校相談が目立ってきています。これもコロナの影響で学校生活に慣れる前に休校が続いたり、自主的に登校しないという期間が長引いたりして、学校へ行きづらくなったお子さんが不登校傾向になったという相談ケースもありました。

このような状況の中で相談員としては、まず「傾聴」を心掛け、相談者の心に寄り添うことを第一に考え業務に取り組んでいます。本来なら地域のママ友や子育てサークルなどでの交流によって得ることができる子育ての知識や互いの悩みを打ち明ける場や機会が激減してしまいました。その中で子育てに奮闘している親御さんが、ネット上のあふれる子育て情報に翻弄され電話相談してくるケースが増えてきました。相談員の肉声を聞き、丁寧に対応させていただいている中で、相談者の不安が解消されたり、自分の子育てに自信を取り戻したりしていく様子が電話越しに感じられ、切電の際に、明るい声で「ありがとうございました」と言われることは相談者冥利に尽きることで

す。

来年度も市民の不安を少しでも和らげることができる相談業務を行っていきたくと考えています。関係機関の皆さんにはリーフレットや電話カードなどを渡してもらいながら、困っている方々へ当センターを勧めていただくと幸いです。